

統合失調症の人についての ビデオ視聴による偏見低減の効果 AMD尺度とSDSJ社会的距離尺度による 患者談話条件と医師説明条件との比較

○小平朋江 (聖隷クリストファー大学)

伊藤武彦 (和光大学)

松上伸文 (和光大学大学院)

井上孝代 (明治学院大学)

日本応用心理学会第74回大会(帝塚山大学)

2007年9月8日~9日

【問題】 統合失調症の当事者

- 統合失調症の発症率は人口の約1%。
- 現在日本には、約73万人がこの病気で苦しんでいると推計される(「平成14年患者調査の概況」厚生労働省ホームページ)。
- 2002年に、病気の呼称が、「精神分裂病」から「統合失調症」に変更された。
- 当事者たちは従来の入院による治療から、地域の一員として生きていくことになった。

統合失調症に対する偏見の問題

- 当事者たちを取り巻く人々の、ステレオタイプ的な偏見が問題とされる。
- 我々はコミュニティ心理学的な視点からの偏見克服が課題である(小平・伊藤,2006)
- 子ども・青年が、できるだけ若い時期から、統合失調症をはじめとする精神疾患への正しい知識と態度を身につけるべきである。
- 差別の予防という意義だけでなく、精神障害者を含めた、多文化的共生社会の成員となるための心理社会的発達を促進するという意義も大きい。

偏見低減のための教育

偏見低減のための教育 3目標

- 1 正確な知識
 - 2 対処できるスキル
 - 3 価値／気づき／態度
-
- このうち一次予防教育では1と3が重要
 - 今回の実験では、3の変化に焦点を当てる

偏見低減教育の「効楽安近短モデル」

偏見低減教育の5要素

- 効：効果のある内容
- 楽：おもしろく、参加して楽しい経験
- 安：誰でも（専門分野にかかわらず）実施できる、
気楽に参加できる
- 近：教材の入手が容易、特殊な装置が不要
- 短：時間がかからない（50分授業内で可能）

EASES Model

**of preventive education
for reduction of stigma**

- **効**: **Effective results**
- **樂**: **Amusing contents**
- **安**: **Simple & non-expensive preparation**
- **近**: **Easy access to materials**
- **短**: **Short time**

統合失調症についての偏見低減教育 の先行研究

- Ritterfeld & Jin (2006)の研究が注目される。
- 統合失調症をテーマとした映画「エンジェル・ベビー」(1995豪:日本未公開)の視聴前後の態度変容を調べた。
- しかし映画では時間がかかりすぎるという難点がある。
- 「効楽安近短」の5条件を満たす教材が必要である。

【目的】

- 大学生を対象として、テレビの教育番組を編集したビデオを視聴させる実験により、質問紙を用いて統合失調症という病気の人に対する大学生の態度の変化を測定し、教育的効果を明らかにし、具体的な教育方法や教材の開発のための示唆を得ることである。
- 今回は、小平・伊藤・松上(2007)の実験計画で用いたAMD尺度に加えSDSJ社会的距離尺度をも従属変数として用いた。

【方法】実験参加者と実験材料

- **【実験参加者】**都内のM大学生 67名(男子31名、女子36名)で、これを、「患者談話」条件33名(男子16名、女子17名)、と「医師説明」条件34名(男子15名、女子19名)の刺激の異なる2条件に無作為に配分した。
- **【刺激となるビデオ】**NHKの教育番組から次のような15分以内の、2つのビデオを編集し実験刺激とした。
- **①医師説明ビデオ:**精神科医が統合失調症について一般的な知識を講義形式で話しているもの(「きょうの健康 統合失調症 進む治療 周囲の対応で改善」2004年6月23日放送)。
- **②患者談話ビデオ:**当事者(統合失調症)が素顔で出演し病む体験を語っているもの(「にんげんゆうゆう 精神障害 病と向きあって生きる」2001年9月17日 放送から10分程度)にビデオ①の一部を加えたもの。

【方法】事前－事後テスト

- 質問紙:

- (1) 北岡(東口)(2001)が作成した、下位尺度として
①社会的距離尺度10項目と②イメージ尺度10項目
からなる「精神障害に対する態度(Attitudes toward
Mental Disorder: AMD)測定尺度」
- (2) 牧田(2006)が作成した「統合失調症に対する社
会的距離尺度(The Japanese language version
of Social Distance Scale: SDSJ)」5項目

【方法】 手続き

- まず、ビデオ視聴前に全員の参加者に1回目の質問紙を実施した。それから、参加者を2つに男女ごとにランダムに2条件に配分し、ビデオ①②のどちらかを視聴させた。ビデオを視聴後、2回目の質問紙を実施した。
- 2007年5月の「臨床心理学」の授業において実施した。

【結果】(1) 尺度の信頼性係数 α

- ①事前のAMDの社会的距離尺度10項目 $\alpha=.820$
- ②事前のSDSJ社会的距離尺度5項目 $\alpha=.692$
- ③事前のAMDのイメージ尺度10項 $\alpha=.863$

- ④事後のAMDの社会的距離尺度10項目 $\alpha=.794$
- ⑤事後のSDSJ社会的距離尺度5項目 $\alpha=.665$
- ⑥事後のAMDのイメージ尺度10項目 $\alpha=.900$

【結果】(2) 性別、統合失調症を持つ人への接触経験 による平均値の差

- 男子31名、女子36名において、①から⑥に性別に差はなかった。
- 当事者との接触経験の有無で見ると、有(13名)無(54名)で①から⑥に有意差はなかった。2条件間の平均値の差では、事前テストの平均値の差をみると、 $t(66) < 1$ でいずれも①②③に有意差はなかった。
- したがって、2条件の実験参加者は等質であるとみなして良い。

【結果】(3) 事前-事後の 態度尺度値の全体的変化

- 事前-事後の効果を実験条件のグループは問わず全体的傾向として、平均値の差をみると、
- ①**AMDの社会的距離尺度**は、事前=1.50±.53, 事後=1.43±.52, $r=.767$, $t(66)=1.736$, $p=.087$ で有意差がなかった(Fig.1)。
- ②**SDSJ社会的距離尺度**は、事前=1.27±.56, 事後=1.17±.55, $r=.656$, $t(66)=2.303$, $p=.024$ で有意だった(Fig.2)。
- ③**イメージ尺度**では、事前=1.46±.49, 事後=1.16±.53, $r=.537$, $t(66)=4.952$, $p<.001$ と有意な効果があった(Fig.3)。

【結果④】患者談話条件と医師説明条件の間の平均値の差の分散分析

- ①AMDの社会的距離尺度 (Fig.1) の全体の事前事後は $p=.085$ で有意差が無かった。事前の結果から事後を減算した結果では、患者談話条件 (.12 ± .35) と医師説明条件 (.03 ± .37) での事前事後テストの交互作用も有意差は無かった。
- ②SDSJ社会的距離尺度 (Fig.2) の全体の事前事後の主効果は $F(1, 65)=5.250$, $p=.025$ と有意だった。患者談話条件 (.15 ± .41) と医師説明条件 (.11 ± .50) との事前事後テストの交互作用は有意差が無かった。
- ③AMDのイメージ尺度 (Fig.3) の全体の事前事後の主効果は $F(1, 65)=30.676$, $p<.001$ と有意だった。患者談話条件 (.52 ± .45) と医師説明条件 (.08 ± .44) における事前事後テストの交互作用は $F(1, 65)=15.816$ $p<.001$ となり、患者談話群の効果が医師説明群より有意に大きかった。

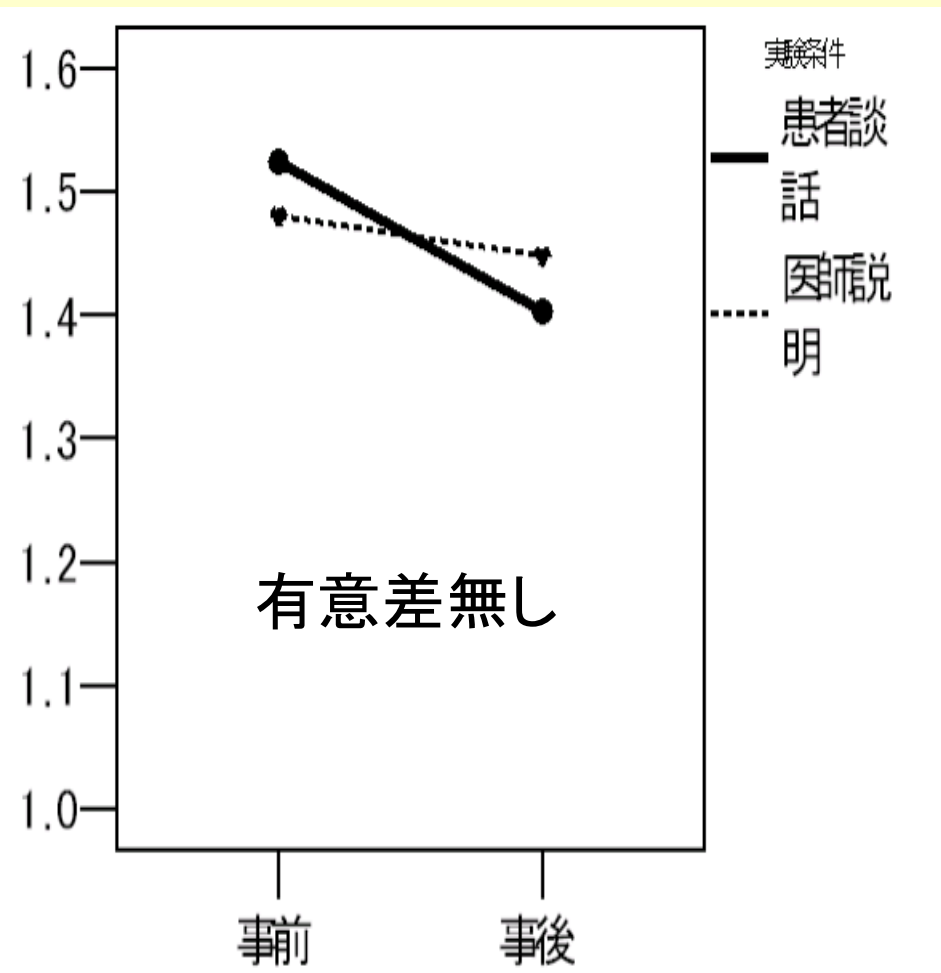


Fig.1.AMDの社会的距離尺度

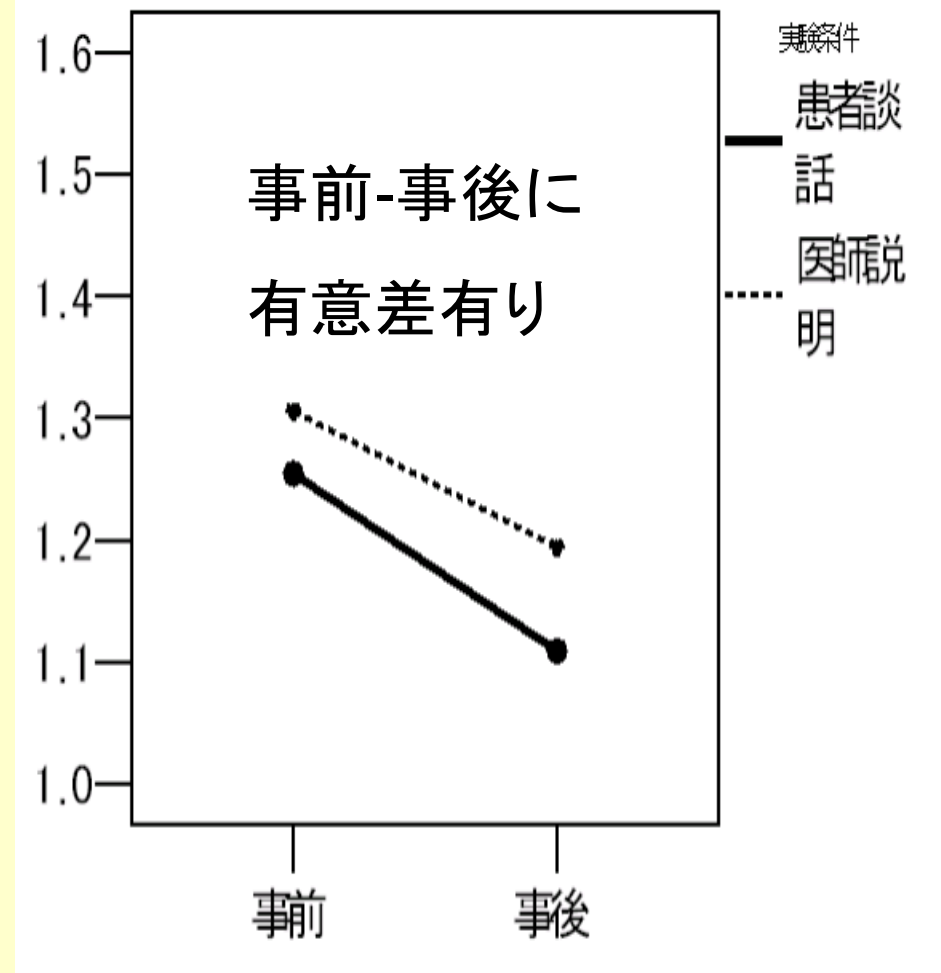


Fig.2.SDSJ社会的距離尺度

Fig1-3とも高い値は偏見が強いことを示す

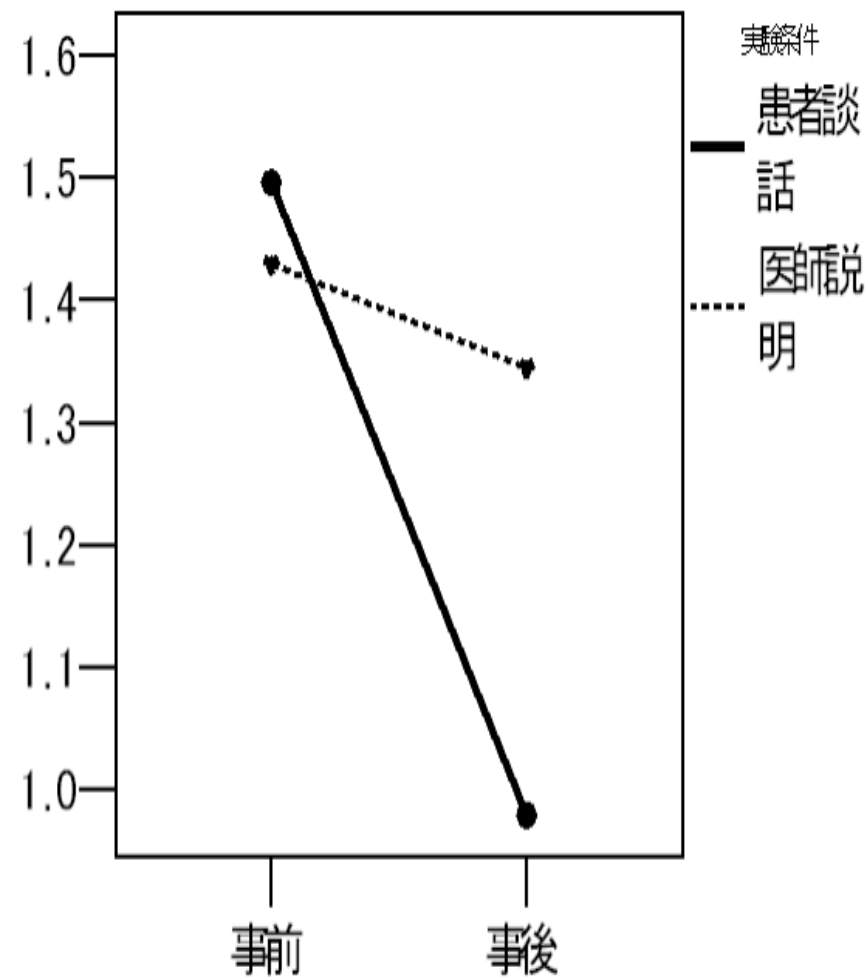


Fig.3. イメージ尺度

**事前事後の主効果
と交互作用が有意**



**患者談話群は偏見
が有意に低減した**

**医師説明群は偏見
低減に有意差無し**

【考察】ビデオ視聴による偏見低減の効果

- (1) 本実験のような15分以下のビデオ視聴でも偏見低減に効果があることが示された。
- (2) 社会的距離の短縮よりも当事者の悪いイメージの改善に特に効果があった。それは特に患者談話群すなわち当事者の語りを聴くことの効果であった。
- (3) 患者談話群にのみイメージ尺度での偏見低減効果が認められたことから、ビデオ媒体をとおしてではあれ接触仮説が意味を持つ有効なものであることが示された。

【考察】偏見低減教育の教材開発

- 今回の実験方法およびその結果から、具体的な教育方法や教材の開発のためには、効果があり(効)、内容が楽しく(楽)、誰でも実施でき(安)、教材の入手が容易(近)で、時間がかからない(短)、という5点の要件を満たすような教材開発の必要性を示唆するものである。

- 【文献】 北岡(東口)和代 (2001) 精神障害者への態度に及ぼす接触体験の効果 精リハ誌, 5 (2), 142-147.
- 小平朋江・伊藤武彦(2006)精神障害者の偏見と差別とスティグマの克服 マクロ・カウンセリング研究 5 62-73
- 小平朋江・伊藤武彦・松上伸丈 (2007) ビデオ視聴による統合失調症の人への偏見低減のための教育の効果 第49回教心総会発表論文集(印刷中)
- 牧田潔 2006 統合失調症に対する社会的距離尺度 (SDSJ)の作成と信頼性の検討 日社精医誌,14, 231-241
- Phelan, J. C., & Link, B. G. (2004). Fear of people with mental illnesses: The role of personal and impersonal contact and exposure to threat or harm . *Journal of Health and Social Behavior*, 45, 68-80.
- Ritterfeld, U & Jin, S-A. (2006) Addressing media stigma for people experiencing mental illness using an entertainment-education strategy. *Journal of Health Psychology*. 11, 247-267.